

# 地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの推進

## スケジュール(イメージ)

- 実施期間は7～11月を見込む。決定後、早期に準備会の設置や関係者の研修会を開催し、問題意識を共有。
- 孤独・孤立対策に取り組む対象自治体に対し、プラットフォームの立ち上げや自治体のニーズに応じた孤独・孤立対策事業を実施する際、コンサル等によるサポートと事業費支援により、きめ細かく側面支援。
- 11～12月には中間報告会を実施し、対象自治体の状況を共有。1月以降は、各団体の成果を報告書に取りまとめ、その活動について各ブロックで説明会を実施。最終的に報告書を取りまとめ全国の自治体に共有。

	支援団体間の連携強化	地域内の現状把握	住民の認知向上 意識向上	専門人材等の育成・確保
6月	事業参加自治体の公募、選定、発表 (随時)	各自治体の実情に応じて選択して実施 ※必要となる事業費は、一定額の範囲で受注者が支払 (1団体あたり都道府県・政令市1,200万円、市町村600万円)		
7月	準備会立ち上げ、研修会実施			
8月	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">(事例発表など)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">プラットフォーム参加団体の選出</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">既存組織活用か、新設か</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">各自治体の活動について調査・分析</div> </div>	支援対象者は地域内にどのぐらいいるか、地域資源のデータを共有	孤独・孤立の問題について自治体内の住民に認知してもらう事業や手法を検討	専門人材等の現状、育成状況の把握
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【熟度によっては以下の議論も実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的に困難な状況になっている方々をどう支援するか(自殺、8050、ひきこもり、シングルマザー、ヤングケアラーなど)</li> <li>・行政の施策や取組にアクセスしないが困っている方々をどう支援するか(広報周知、アウトリーチ型支援、個人情報共有、無関心層の取り込み)</li> <li>・地域内につながりをつくる場づくりなど予防的な対応ができないか</li> <li>・これまでにない手法で事業展開できないか(複数年事業の実施、域外NPO等がオンライン提供するサービス利用)など</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     実情に応じて、実態把握調査や地域資源の整理(マップ化)を実施。関係者へ周知・広報、来年度予算要求など対応                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     関係者の連携によるイベント開催、対象者を絞った普及広報、ポータルサイト作成                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     専門性の高い研修とともに、身近な相談者となり得る方を増やす研修の創設・実施を検討。 【例】リンクワーカー養成研修(三重県)、ゲートキーパー研修(厚労省)                 </div>
10月				
11月	プラットフォームの立ち上げ(早期も可)			
以降				
事例報告会で各団体の状況が共有				
報告書とりまとめ、全国説明会で自治体に共有				